

# SMF 風の軌跡とその行方

## 2008

### LINK! ミュージアムからアートの風を!! アート竜巻フェスタ 2008

5つのミュージアムが連携し、かざぐるまプロジェクトを中核に、埼玉県内各地に爽やかなアートの風をはこびました。



『SMF PRESS』同様、記録集にも関わっている人の息づかいが聞こえるようなページがあってもよいとして、SMFのこれまでの活動を裏方の視点から振り返ることになり、デザイン担当のArms中村A、事務局のBijutsukan中村B、記録担当Cameraの中村Cの「中村ABC」で、このページを担当することになりました。それぞれの筆者のつぶやきの部分もありますがご容赦を!

年のせいなのか、はたまた「方丈庵・臨機応楽」に訳もわからず関わってしまった影響か、ここどころ「起きて半畳、寝て一畳」という言葉を頭を離れません。「はだかで生れ、はだかで還る」もそうですが、いつも呼びがかかってもいいように人生の荷物は少ないに抑えますね。3.11以降、なおさらそう思うようになりました。

といっちはみたものの、いまだにまったく娑婆っ気が抜けず、家でも職場でもいろいろなものを溜め込んでハシシユクを買っている次第。先日も一日がかりでデスク上を整理したのですが、まだ人様の何倍も残っています。残っているといえは溜まり放題の取れない代休も今やニケタに迫る勢い。この連休も朝から晩までパソコンに向かい事務局のご奉仕で、家族の失笑を買っている有様です。「こんな生活、もうやめだ!」とすべてをなげうって漂泊の旅に出ることに憧れる毎日です。

美術館周辺の仲間と「CAFE」というサークルを作り、お花見や遠足を楽しんでいた数年間、杉並区のアート仲間とのNPOの立ち上げや「ヒアスンスハウスをつくる会」でさまざまな分野のユニークな人たちに会えたこと、SMFの前身となった「さいたまアート懇話会」からアートの風のかざぐるま、そして「SMF」へ、というのが私的に見たこの15年のおおよその流れです。この間、開館20周年や25周年の展覧会も担当しましたが、自由な課外活動の趣のある館外のみなさんとの活動の方が、より印象に残っている気がします。SMFのメンバーのみなさんの多士済々の魅力でしょうか、ハラハラドキドキを含めて、いつも楽しませてもらっています。ゆるゆるの事務局ですが、みなさんのお蔭で何とか回ってきました。

個人的にはお気に入りの行きつけの店の情報のように、親しい仲間だけの隠れ家としてSMFをこっそりしておきたいところもありますが、事務局としては各ミュージアムとうまくつなぎながら、もっと開かれたプラットフォームづくりをみなさんと考えていかなければなりません。漂泊の夢はいましばらくお預けにして、事務局態勢を整備し、みなさんのエネルギーをたくさんいただきながら、「SMFアートバンク事業」を中心にSMF (Saitama Muse Forum) からSAP (Saitama Art Platform) への展開を図っていききたいと思います。

中村誠(SMF事務局)

### SMFの現場を追い続けて

私がSMFの写真記録係に携わるようになったきっかけは、一本の電話からでした。埼玉県立近代美術館学芸員の中村誠さんからのもので、「川越市立美術館に来て撮影を手伝ってほしい」という依頼でした。その当日

は朝から雨でしたので、少し早く家を出て会場に向かいました。私がこの日撮影したのは、根岸和弘さんの風車のインスタレーションと創作ダンスのコラボレーションの記録でした。撮影の合間に見たダンサーたちの濡れたシューズが床に描く軌跡もまた、薄墨色で描いたアートだと思ったことが印象に残っています。

その日からSMFの記録写真を撮りはじめて4年あまりがたちます。表現者であるアーティストのみなさんが真剣に取り組んでいる作品の瞬間、瞬間に、私もファインダーを通して真剣勝負で向き合ってきました。だからこそ思わず欲張りになって、ファインダーの中を通り過ぎる作品が語りかけてくるたびに、そのチャンスを逃したくない一心で、いつも絶え間なくシャッターを切り続けてきました。

これからも、SMFの写真記録係として体力だけは衰えないように鍛えていこうと思います。次につなげるために。

中村元(SMF協力委員)

### SMFの活動をデザインする

SMFとの関わりは、今年度で4年目を迎えます。各事業のチラシ、『SMF PRESS』やアートマップなどをデザインし、またホームページは木村昭司さんと二人で担当しています。毎回、多彩な事業内容と各担当者の熱い思いを受け止めてデザインすることを常に心がけています。

そこでまず最初に、SMFのロゴマークを創りました。これは2008年7月に始まった(かざぐるまプロジェクト)がヒントになりました。プロジェクトのシンボルが「かざぐるま」ということで、それをロゴマークにできないかと思い、風にまわるカラフルな「かざぐるま」と同時に、SMFのアート活動が県内を四方八方に拡がっていくイメージを表現しました。それと毎回事業名がユニークなので、これもデザインしたらおもしろいと思い、2008年の《アート竜巻フェスタ》では文字どおり、ぐるぐるまわる竜巻のように勢いのあるデザインにしました。2009年は《SMFアートのわっ!》。これは何か丸いものが浮かんで、風船のような形はどうだろうとフワフワした楽しい雰囲気を出しました。このときには実際に、そのマークを入れた風船を作りました。2010年の《交差する風・織りなす場》は今までは少し違って、言葉そのものをデザインしてみようと思い、流れるような形にしてメッセージ性を持たせました。以上の3つは、どれも「風」というテーマで統一されています。

2011年は《つながる Heart Art》。タイトルどおりハートをデザインしましたが、それは埼玉県形の形にも見えます。ひとつのデザインに、ふたつの意味を持たせてみました。今回は「風」にこだわらず、その先への新たな展開につながるような形にしました。

ロゴマーク一つとっても、そのプロジェクトの内容やテーマを表現したり、チラシも受け手側の立場にたって創ったりと、さまざまな状況に対応していく、それが「デザインする」ということだと思っています。SMFでのこうした経験をさらに一歩進めて、なおかつ楽しみながら次へのステップアップになればと思います。

中村隆(SMF協力委員)

## 2010

### 交差する風・織りなす場 —SMFアート楽座・アートバンク 2010

地域の文化資源を活かす多彩な取り組み「SMFアート楽座」「SMFアートバンク」もはじまりました。

### 交差する風 SMFアート楽座・アートバンク 2010 織りなす場



## 2009

### SMFアートのわっ! —あつまれアートのつむじ風2009

各ミュージアムを拠点に埼玉県内各地で開催された「SMFアートの緑結び」と多彩なアートプログラムが結集した「SMFアート緑日」。



## 2011

### Saitama Art Platform 形成準備事業

アートでつなぐまちとひと。連携ミュージアムを拠点として地域の文化資源を活かす活動も多彩に広がってきました。

